

泉南市教育振興基本計画（案）パブリックコメントに対する教育委員会の考え方

	意見等	泉南市教育委員会の考え方
全体	<p>今回の本計画に対して2種類の提案を行います。            なお、基本的に計画案に対して異論はありません。</p> <p>○計画案の「今後の方向性」において求められる課題</p> <p>&lt;マインド&gt; 能動的な学習意欲の定着                              自己肯定感（自信）の確立</p> <p>&lt;スキル&gt; コミュニケーション力の向上</p> <p>&lt;システム&gt; 生涯学習サイクルの構築</p> <p>これらの課題解消策として「子供たちの、子供たちによる、後輩育成方式教育環境の構築」を掲げます。子供たちが自ら考え、目標を設定し、後輩となる者たちへ物事を教えることにより、学校で学んだことを生かせる環境を作ります。これにより、社会の一員であることを肌で感じ、使命感に駆られた自発的な学習を行うことを目論みます。</p> <p>○概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人に教えることで、これまでの蓄積された知識や経験を形式化する力がつく</li> <li>・物的、もしくは表現的な手法で自分の考えを伝える力がつく</li> <li>・相手に伝わることで自己表現できるようになり、コミュニケーション力が向上する</li> <li>・目標設定を自ら行うことで自己能力の把握ができ、計画策定能力が向上する</li> <li>・自分が主体であり、社会の役に立つことを認識することにより、自己肯定感が強化される</li> </ul>	<p>泉南市教育振興基本計画（案）の「基本理念」は「つながりを力にして～現実と向き合い、様々な困難を乗り越えながら、社会を構成する一員へ～」になっています。そこには、経済的・社会的に厳しい状況にあっても、人と人のつながり、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校のつながり、学校・家庭・地域のつながりなどの「つながりを力にして」、現実と向き合い、様々な困難を乗り越え、未来を切り拓くという思いが込められています。</p> <p>計画案の「基本方向」には、今回のご提案の視点に重なる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小中一貫を視野に入れた小中連携をはじめとした保・幼・こ・小・中連携</li> <li>○学校、家庭、地域の連携、協働</li> <li>○教育コミュニティづくり</li> </ul> <p>の視点が入っています。</p> <p>また、基本方針に基づいた具体的施策にも</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちが自ら学び、自ら考える力を育むアクティブ・ラーニングを推進する</li> <li>○地域住民や学生をはじめとする様々な生き方（のモデル）との出会いを通して、なかまと共に自らの生き方について考えることで、将来展望へつなげる</li> <li>○集団の中で一人ひとりを尊重し、ちがいを認め合い、共に学び、共に育つ教育を推進する</li> <li>○子どもたちが地域住民とのふれあいを通して、役立ち感や自分の存在意義を実感できるよう、子どもたちの地域社会づくりへの参加、参画を推進する</li> </ul>

<p>・双方向の学びあいにより新たな発見ができ、恒常的な学習を求める思いが強化される</p> <p>また「公共施設等の最適化」を考慮し、既存施設の最大限活用も同時に求めます。</p> <p>基本的には高齢化社会が問題となる昨今、埼玉県和光市の西大和団地にある「まちかど健康相談室」に倣い、ご高齢の方々が寄り合い、安心して過ごせる場所を提供するとともに、子供たちが集まり、学習する環境を考えます。</p> <p>○提案内容</p> <p>【案1：集約型】「地域相互扶助による全体底上げ方式」</p> <p>「あいびあ泉南（泉南市総合福祉センター）」を生涯学習センターとして位置づけ、放課後や休日に市内の小中学生が集い、学びあう環境を提供します。また子育て世代にとっても集いの場として機能させ、世代を超えた助け合い・教え合いの場として有効活用します。</p> <p>生涯学習センターは基本的に24時間対応とし、いつでも好きな時にサービスが受けられるものとします。これにより、「もう一つのわが家」として市民の中心機能を担います。</p> <p>いつでも学習できる環境を整えることにより、家庭環境の違いによる学習水準低下を低減させ、高齢者には生きがいを、子供には居場所を、子育て世代には安心を与えます。</p> <p>(以下に、その具体案が記述されていました)</p>	<p>○子どもを中心に学校、家庭、地域が一体となって、世代を越えた人々の信頼関係や結びつきをつくる教育コミュニティの取組を推進する</p> <p>○つながりの中で子どもたちが未来を拓くことができるよう、学校や公民館等を教育コミュニティの拠点として位置づける</p> <p>○保護者を含めた地域住民が保育教育にむきあうことで、自分自身が学び直しをしていく生涯学習を推進する</p> <p>○子どもが余暇や遊びを楽しみ、学び、休息し、文化、芸術に触れることを通して、人と出会い、自分らしさを発揮できる居場所づくりを推進する</p> <p>などが今回のご提案の視点に重なる内容として謳われています。</p> <p>泉南市教育振興基本計画（案）は、子どもをめぐる今日的課題に対応するため、あくまでも本市の教育の中長期的な目標や基本的な方向性を示すものであり、具体的な取り組みは今後、平成28年度から平成31年度までの4年間を計画期間として展開されます。</p> <p>今回のご提案は、基本的に計画案に対して異論はないということなので、今後、具体的な取り組みをつくる際の参考にさせていただきたいと考えます。</p>
--	--

【案2：分散型】「地域格差競争による底上げ方式」

学校・公民館・集会所を生涯学習教室として活用し、放課後や休日に区域内の小中学生が集い、学びあう環境を提供します。

各教室はネットワークでつながれており、必要な時にどの教室とでも連絡を取り合うことができるものとします。これにより、互いに刺激しあう「よきライバル（仲間）との交流ができる場」として子供たちの学習意欲向上機能を担います。

区域内外の各学校における学習方法や練習方法を公開・交換できる環境を整えることにより、各活動において切磋琢磨できる場を作ることができ、子供たちの上昇志向を喚起させます。

(以下に、その具体案が記述されていました)

○おわりに

これらを実現するためには、施設の運営方式をあらため、民間企業、もしくは市民団体へ維持管理を移譲（全部・一部・時間単位など）し、施設の状態（利用状況・資産価値・満足度など）を見える化し、自分たちで運営できる仕組みを構築しなければなりません。

少子高齢化が全国規模で問題になっていることは周知の事実であり、国からの助成金等に頼る施策はリスクの高いものと考えられることから、市民が自ら行動し、キャッシュフローを念頭に、経営感覚を持った教育現場の運営を行わねばならないと考えます。

(以下に本提案における10のチェックポイントの記載があり、それぞれについての検証が記述されていました)